

9. 近代産業遺産の活用によるワインのまちの再活性化

～観光資源の充実とワイン産業の振興の組合せ～

山梨県甲州市 旧勝沼町地域

解決すべき課題

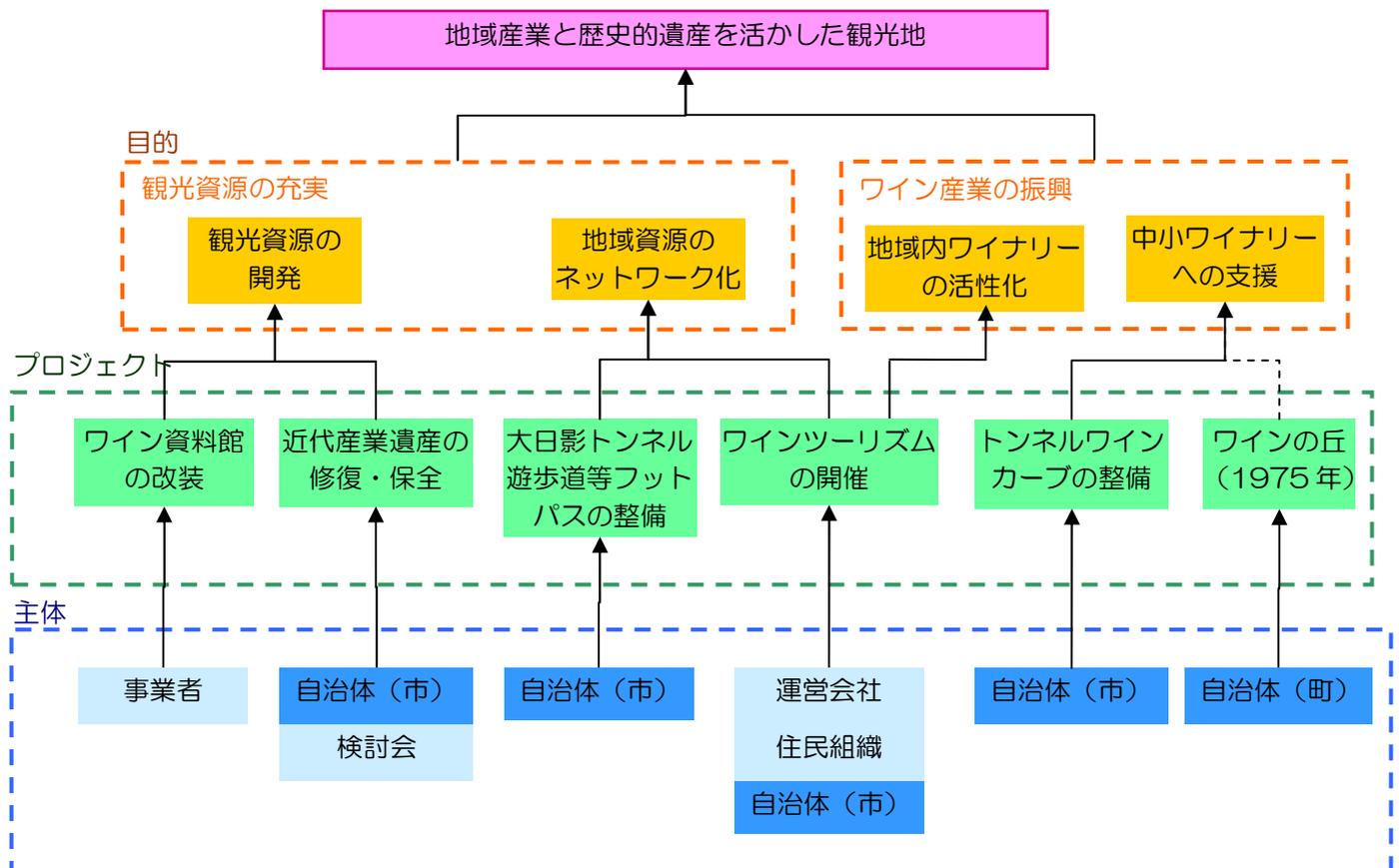
経済	商工業の振興
	農林業の振興
	観光の振興
経済・社会	雇用の確保
	中心市街地の活性化
社会	定住人口の増加
	アクセシビリティの向上
	地域の荒廃の抑制
環境	環境負荷の低減

事業概要

甲州市勝沼地域に残る、ぶどうやワイン産業に関連する近代化遺産を整備・修復し、市内のワイナリーと結びつけた観光ルートを作り出している。

近代化遺産の中には民間ワイン事業者が所有する施設もあるが、甲州市の基盤整備に呼応する形で事業者自らが整備したり、所有建物を市へ寄付するなど、官民が連携して観光資源の発掘に努めている。

プロジェクトパッケージの構造図



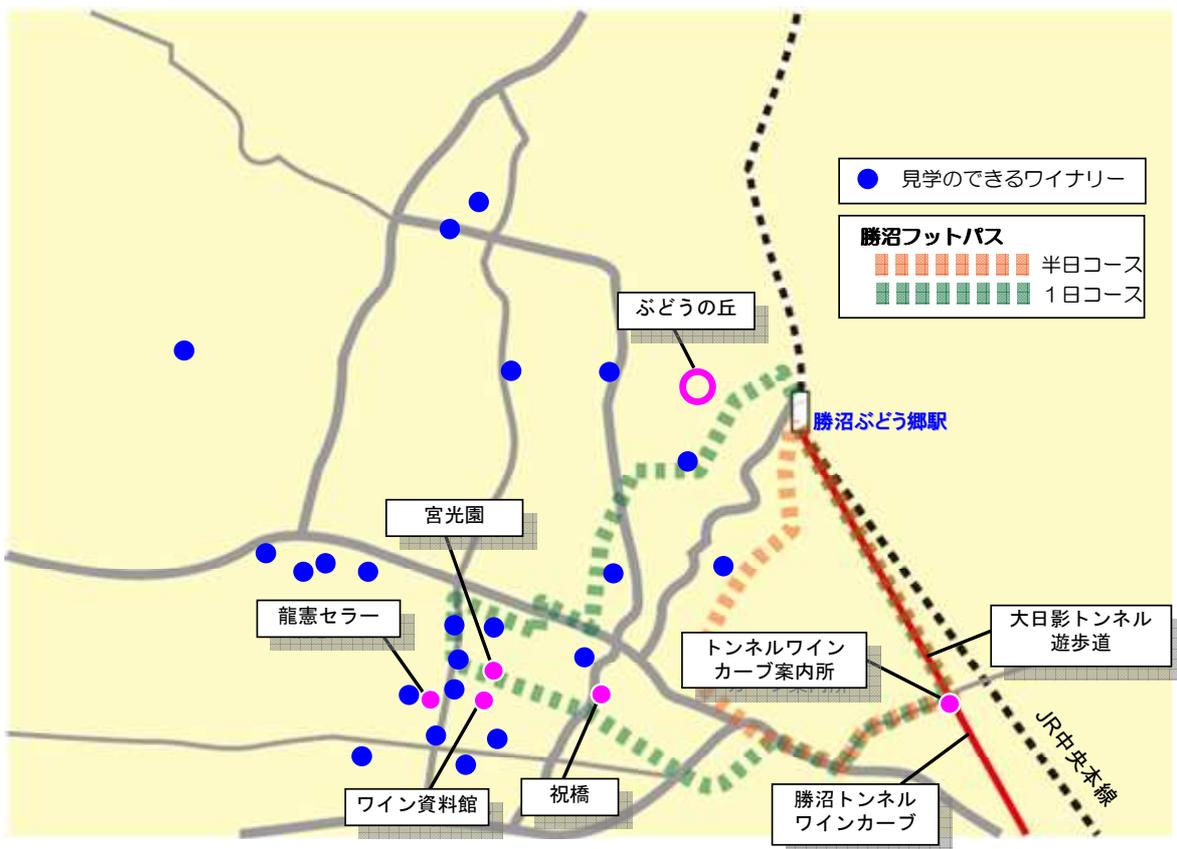
プロジェクトの背景

旧勝沼町（現甲州市）は、ぶどうとワイン生産の町として観光とワイン産業を中心に発展してきた。ところが、後継者不足による耕作放棄地の増加や、レジャー志向の変化によるぶどう狩り団体客の減少などにより近年活力が失われてきた。

また、ワイン関係の観光客は秋の収穫期に集中するため、通年的な観光資源の発掘が求められていた。

本事例における「パッケージ化」

- 地域産業と歴史的遺産を活かした通年的な観光地とするために、観光資源の充実とワイン産業の振興をパッケージ化している。
- 近代産業遺産の修復による観光資源の発掘、近代産業遺産やワイナリーを結ぶ周遊ルートの整備による回遊性の確保を行うとともに、中小ワイナリーに対する支援を行うことで、観光基盤であるワイン産業の振興を図っている。



(1) プロジェクトの内容

2003年度（平成15年度）に、勝沼町（当時）関係者と外部有識者からなる委員会（財団法人広域関東圏産業活性化センター事業）により、町内に存在する近代産業遺産とワイン産業を活用した地域活性化方策が提言された。新たな観光政策の必要性を感じていた勝沼町は、その提言を実現するため、2004年（平成16年）に「勝沼タイムトンネル100年構想」を策定し、構想に基づく整備計画を進めた。

① トンネルワインカーブの整備

中央線の線路付け替えによって廃線となったトンネル2本をJRから無償提供を受け、うち1本をワイン貯蔵庫（ワインカーブ）として再利用した（2005年（平成17年））（写真1、写真2）。資金は県の補助と勝沼町（当時 2005年（平成17年）11月に合併し甲州市となる）が起債をして調達をした。

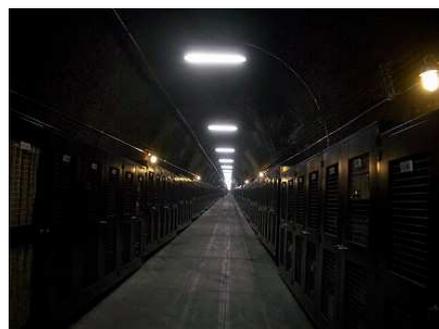


写真1：トンネルワインカーブ入口（左）
写真2：トンネルワインカーブ内部（右）

トンネルをワインカーブに転用する事例は他地域でも成功していたため、活用のアイデアとしては当初よりあった。自社に大きなワインカーブを所有していない町内の中小ワイナリーから強い要望があり、ワイナリーへの支援という意味合いもあり実現された。



写真3：大日影トンネル遊歩道入口

② 大日影トンネルの遊歩道

JRから譲渡された2本の旧トンネルのうちもう1本については、2007年（平成19年）に線路を活かした遊歩道として整備された（写真3）。この遊歩道は、勝沼地域に点在する近代産業遺産やワイナリーを周遊するための遊歩道「勝沼フットパス」（後述）の一部となっている。（写真4）

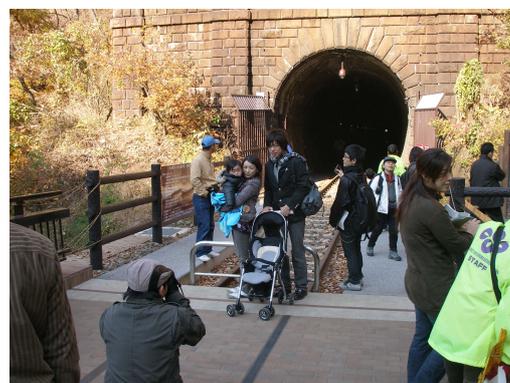


写真4：フットパスイベントツアー風景
（大日影トンネル遊歩道入口）
（甲州市提供）

③ フットパスの整備

勝沼地域に点在する史跡、近代産業遺産、ワイナリーなどを観光客が歩いて回ることができるように、大日影トンネルを含む遊歩道を整備し、「半日コース」「1日コース」

などのコース設定をし「勝沼フットパス」と名づけた。遊歩道整備にあたっては、国土交通省まちづくり交付金を活用した。

ルート設定などの検討は住民が中心となって行った。フットパス整備後は、検討に加わった住民を中心とする「勝沼フットパスの会」が設立され、ガイド付きイベントツアーの開催などの活動を行っている（写真5）。

フットパスとは「イギリスを発祥とする“森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】”のこと」（日本フットパス協会）である。



写真5：フットパスイベントツアー風景
（甲州市提供）

④ 近代産業遺産の修復・保全

JR から譲渡された2本のトンネルの他、勝沼ワイン生産の基礎を築いた宮崎光太郎の居宅「宮光園」（写真6）の修復、1930年（昭和5年）に建設されたコンクリートアーチ橋「祝橋」の改修、勝沼にワイン製造を伝えた土屋助次郎（龍憲）が建設したワイン貯蔵庫「龍憲セラー広場」の改修など、近代産業遺産の修復を進めた。事業の多くは国土交通省まちづくり交付金事業として実施され、2004年度（平成17年度）～2009年度（平成21年度）に実施されている。修復対象とする産業遺産については、市民を中心とする「近代産業遺産を守り育てる検討会」によって選定され、修復された産業遺産はフットパスによって結ばれている。



写真6：宮光園

⑤ ワインツーリズムの開催

勝沼ワインの愛飲者を全国に広めることと、ワインのまち勝沼をアピールするため、2008年（平成20年）より「ワインツーリズム」を開催している。市内30のワイナリーでの試飲の他、特設会場での飲食ブースの設置、ワインやぶどう、地域の歴史文化を学ぶ企画の実施、野菜など地域製品の販売所の設置など、ワイナリーだけでなく地域全体で勝沼をアピールするイベントとなっている（写真7）。イベント当日はワイナリーを結ぶ無料バスが実行委員会によって運行されている。



写真7：ワインツーリズムメイン会場

運営は、NPO 法人 KOSHU かつぬま文化研究所、かつぬま朝市会、勝沼ワイン協会など地域内の住民組織、事業者により組織された実行委員会が行っている。

⑥ ぶどうの丘

ぶどうの丘は、辺りをぶどう畑で囲まれた小高の丘の上にある、日本最大級のワインショップやワインカーブ(写真8)、レストラン、宿泊施設、温泉施設などを有する観光施設である。勝沼町(当時)に所在する中小ワインメーカーの販路確保と、観光客の宿泊ニーズ対応のために町営施設として建設された。ワインカーブには、甲州市の審査会に合格した市内ワインメーカー製造の約180銘柄のワインが所蔵されている。施設は1975年(昭和50年)から営業開始しているが、勝沼タイムトンネル100年構想においても、ワイン産業支援と観光振興の施設として、重要な位置を占めている。



写真8：ぶどうの丘のワインカーブ

(2) 効果

① 地域資源のネットワーク化と観光資源の開発

近代産業遺産とワイナリーを結ぶフットパスの整備、ワインツーリズムの開催などによる効果で、2004年(平成16年)以降勝沼地域の観光客数は増加傾向となっており、2008年度(平成20年度)の勝沼地域の観光客数は約190万人と過去10年間で最大となった。

また、ワインセラーを訪れる観光客に、個人客とリピーターが増加している傾向があるようだが、これは、フットパスの整備、ワインツーリズムの開催などにより、個人ワイン愛好家を勝沼地域に呼び込む取組みが成果を挙げているためであると思われる。

なお、2003年(平成15年)から2004年(平成16年)に勝沼地域の観光客数が飛躍的に増加(1,138→1,798千人)しているが、これは2003年(平成15年)が天候不順であったためぶどう狩りの観光客が大幅に減少したことと、ワイン人気の高まりによるワインセラーへの観光客の増加が重なったものと考えられる。



出典：甲州市資料

② ワイン産業の振興

ぶどうの丘での販売により、中小ワインメーカーの販路が確保されるとともに、それが宣伝となり、地域外の販売量も増加している。また、専用ワインカーブを所有していない中小ワインメーカーの要望に応え、勝沼トンネルワインカーブを整備したところ、ワインメーカー用ワインカーブ約 30 万本分はすべて利用されており、ワインメーカーの経営支援に効果をあげている。

(3) 成功要因

① 上位計画の策定

近代化産業遺産を地域資源として活用するための構想「勝沼タイムトンネル 100 年構想」においては、ぶどうとワインだけでなく、ぶどうとワイン産業の発展に貢献した近代化産業遺産に着目することで、産業遺産群に歴史と物語性を付与することができた。また、点在する遺産やワイナリーを線でつなぐ散策ルートを設定することで、遺産群が地域産業や文化と結びつき、地域資源に面的広がりを出すことに成功した。

② 民間事業者との協力

宮光園の市への譲渡や隣接する資料館の整備など、構想実現にあたって民間ワインメーカーの協力が重要な働きを示した。市による地域全体の整備計画が、民間投資を促した側面もあるが、当該事業者が勝沼を会社のシンボルとして位置づけ、勝沼ワイン全体の品質向上やワイン観光の振興の取り組んできたことが、協力体制の背景に存在する。

③ 民間主体のプラットフォームの構築

勝沼地域には市民の自発的な組織による活動が多い。毎月 1 回朝市を行う「かつめま朝市会」、フットパスツアーの企画などを実施する「勝沼フットパスの会」、甲州種ワインの品質向上のために地元資本の中小ワイン事業者が結成した「勝沼ワイナリーズクラブ」などがあり、それぞれの組織は市とも連携し活動をしている。このような組織の存在と官民連携の下地があったため、近代産業遺産の保存活用やワインツーリズムの実施などの取り組みが大きな広がりを見せていると考えられる。

(4) 今後の課題

フットパスの整備により、歩行者のための散策ルートは整備されたが、高齢者や多くのワイン愛好家のためには公共交通機関による回遊ルートの整備が必要である。現在市民向けの巡回バスは存在するが、2 ルートそれぞれ 1 日 3 便だけの運行である。ワインメーカーからは、夏から秋にかけてのシーズン中の土日には巡回バスの便数を増発して欲しいとの要望がある。

現在の観光客は年間 190 万人であり、地域への負荷はそれほど多くないが、今後観光客がさらに増加した場合、地域の自然環境や生活環境に大きな影響を及ぼすことが予想される。マイカー観光増加への対応、公共交通の充実、生活空間と観光地との関係などについて検討していく必要がある。

関係リンク先

甲州市 観光情報リンク集

http://www.city.koshu.yamanashi.jp/koshu_wdm/html/sightseeing/42444614201.html

勝沼フットパス オフィシャル HP

<http://footpath.seesaa.net/>

ワインツーリズム山梨

<http://www.yamanashiwine.com/>